

学校教育目標	自主…自主性に富んだ生徒を育てる 責任…責任を持って行動する生徒を育てる 健康…健康で情操豊かな生徒を育てる	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	みんなが幸せになれる学校 次代の社会の担い手となる生き力を身に付けた生徒 学校経営参画意識をもって職務を遂行し、教育目標の達成に努める教師
前年度までの本校の現状	成果	新型コロナ感染症の拡大が落ち着き、学校公開などが例年通りに開かれ地域や保護者の参観ができ、保護者や地域の理解を深めることができた。また、自己肯定感を育てる行事等においても、教育課程と併せて教育活動を行うことができた。	全教職員が学校経営参画意識を高めた、ラインによる組織的な運営の実践。家庭と地域と学校が一体となっており一層開かれた教育課程の実現を目指す。

重点	取組項目	具体的取組内容	数値目標	達成度		「中層」自己（学校）評価(A～D)		「中層」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価(A～D)		「年度末」学校関係者評価(A～D)		次年度に向けた取組案		
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント			
学力の向上	○学力の向上 ・学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得（だれ一人取り残さない学力向上アクションプランの実施、充実。	・「ICT機器を利用した各教科の指導と充実」を 実践、iPadを活用した授業力を向上（マイルスト アクションプランの実施、充実。	・「ICT機器を利用した各教科の指導と充実」を実践、iPadを活用した授業力を 向上よりわかる授業を目指し、主体的に取り組み授業項目を95%以上にする。	B	B	B	各授業でiPadを活用した授業を行 う事で授業力の向上を目指し、 取り組み、多くの生徒が研究授業 を行い研究を重ねている状態であ る。	B	研究授業等での生徒の利用状況は良 くなっているが、使いこなすま でに入っていない。2学期以降の授 業行事で発表等に期待する。	B	授業でiPadを活用した授業を行 う事で授業力の向上を目指し、学 生も研究を重ねた結果88%がPad の使用を続けたいと答えていて、幸 いで88%の人が、継続してしま う。	B	生徒の利用状況は前向きではあり ない。使いこなすまでには今一歩 ある。来年度以降の授業でのア プリ等積極的に研究する。			
	○家庭学習の充実 家庭学習習慣に対しての学校の組織的な 対応による取組の実施・充実	・家庭学習の推進に向け「江戸川っ子study week」活用し、さらに取組ませ方を工夫し充実さ せる。 ・放課後自習教室（数・英）の充実。	・家庭学習の推進に向け「江戸川っ子study week」に取り組み、95%の実施値 を目標にする。 ・CD層の補充教室参加者数を95%以上にする。	A	B	B	江戸川っ子studyweekの実施期 間中は各クラスの取り組み状況 が数値的に20%から71%まで あがった。継続も延長し全学 年平均70%実施。	B	登校できていない生徒も取り組め て、家庭で学習できる機会を増や し、充実させる。補充教室参加者 も声をかけ、参加を促してほし い。	B	補充教室というものが非常にマイナ スイメージのため、放課後学習教室 として生徒を募集、CD層と併 用して生徒の主体的参画を促した が、95%はなかなかだった。約8 1%とどまってしまった。	B	日本語を母国語としない生徒が これだけの中で授業の補いの方 けが出来るのか不安がある。ス タディオへの取組の組み 方の検討			
	○読書力の更なる充実 読書活動を通じた探究的な学習の実施及び 充実	・読書力の年間授業数の確保と読書科コンクールを 実施。 ・小岩図書館書による書籍の充実 ・よむYOMUワークシートの活用	・探究的な学習を通して、読書科を各学年年間35時間実施すると共に、よむ YOMUワークシートを活用し、より深い学びの充実を図る。読書科コンクールを 実施。ヒアロオパタル等の開催	A	A	A	読書時間はしっかりと確保できてお り、さらによむYOMUワークシ ートも活用できている。各学年で ヒアロオパタルを開催し、3年生は学 芸発表会で披露する。	B	学校公開や学芸発表会でヒアロオ パタルを参観できるところを楽しみに している。図書室前等の図書掲示のさ らなる充実を促してほし い。	A	読書に対する取り組みはよ い。学芸発表会とヒアロオ パタル勝利者のパフォーマンスに 全校で楽しめたことが出来た。	A	新校舎の新図書館を楽しみにし ている。機能あふれる読書の充 実した読書活動にしてほし い。	B	新校舎の新図書館をしようと している。読書活動の 充実させるにはどうな るのかを核討	
体力の向上	○運動意欲、基礎体力の向上 ・個に応じた体力向上のための 取り組みの実施・充実	・年間指導計画に基づき補助運動を実施 ・河川敷や近隣の小学校の協力を得て、体育の授業 や部活動を実施 ・スポーツテスト結果の向上（体力テストの取り組 みを通じた、一人一人の体力向上への意識の高揚）	・iPadや単元カードを用い、目標や課題を明確にし、運動することに対する楽しさを味わい、学習ア ンケートの肯定結果を90%以上にする。 ・運動部に関して、部活動指導員や地域の力を活用する ・スポーツテストの結果の数値を昨年より上げ、投げ力、持久力向上を図る。	B	B	B	個人の目標を明確にさせ、授業に 取り組んでいる。授業でのクガが 多くなった。 ・地域の学校部活との合同練習実施が 3部活、部活外指導員数が2部 活、さらに増える。	B	運動の楽しさをもっと味わってほ しい。 ・部活動指導員をもっと活用し、短い 時間でも充実できるように期待して いる。	A	体育の授業の取り組みの補い がはかばかしくなってきた。 ・生徒の運動意欲がかなり、取組 みやすい。	B	運動に対する興味をもっと持 たせたい。補助運動の 充実を図る。また、運動 会も充実させる。	B	運動に対する興味をもっと持 たせたい。補助運動の 充実を図る。また、運動 会も充実させる。	
	○ユニバーサルデザインの視点を取り 入れた個に応じた指導の実施・充実	・オリパラ講演など、障がい者理解の講演会や体験 活動を実施	・オリパラ講演会等、障がい者理解を年に1回は開催する。	A	A	A	今年も11月に全学年で実施予 定。講演者も決まり、準備が進ん でいる。	B	11月のオリパラ講演会開催での参 観を楽しみにしている。	B	2学期に終わりにオリパラレガ ジとして毎年おこなっているア リオンでの講演会も、障 害者学生と一緒に実施された。	A	障がい者の取り組みや障害者を持 たない生活の生き方について、学 習を通して学んでほしい。	B	講演会を通じて障がい者理解を 深めたい。講演者も決まり、準備 が進んでいる。	
	○エンカレッジルーム（EC室）の 活用促進 校内委員会の効果的な活 用	・課題を抱える生徒への支援体制の確立。SCやSSWと の連携（校内別室指導支援員との連携） ・多様な居場所づくりとして、学校サポート教室など関 係諸機関と連携	・校内委員会は年35回以上実施し、校内の情報共有を図る。	B	A	B	9月以降で校内委員会を17回実 施し、校内情報共有やSCSSW と連携し、課題を抱える生徒への 支援体制を構築している。関係 諸機関とも連携を実施している。	B	様々な事情を抱えている生徒、連 帯して取り組む生徒やその家庭 との関係性を密にし、柔軟に対応 してほしい。	A	校内委員会は35回以上実施 され、各学年で情報共有し たりしている。校内別室は毎日 開室している。	A	課題を抱える生徒への支援体制の 確立を図りたい。SCやSSW との連携を密にしたい。	B	エンカレッジルームという 居場所を通じて、生徒 の悩みを解決してほしい。	
不登校・いじめ対応の充 実	○子どもたちの健全育成に向けた取 組 ・hpaer-QU、個人面談の活用	・いじめの未然防止	・保護者アンケートで「相談環境」に関する項目において肯定的な意見を80%以上と する。	B	B	B	さらに相談しやすい環境を 目指す。学習面でも、対応できる よう教員のスキルを向上させる。	B	学級だけでなく、学校で相談し やすい環境を引き続き進めたい。 ・生徒一人ひとりに寄り添った丁寧な指導を行う。（日々の活動の中で）	B	保護者アンケートでは80%を 超える保護者に肯定的な意見 を得た。生徒一人ひとりに寄り 添った丁寧な指導を行う。	B	学級全体で話しやすい環境 を作りたい。	B	SCSSWとの連携を密に したり、校内委員会を 充実させる。	
	○教育相談の強化 ・ヤングアラ-の個別面談	・多様な居場所づくりとして、学校サ ポート教室など関係諸機関との連携	・1年生全員対象にSC個別面談、ヤングアラ-面談を行う。（1学期までに全員終了す る。） ・EC室を教育相談以外にも居場所づくりとしての役割を持たせる。（月～金まで毎日開室 を目指す）	B	A	B	SC個別面談、ヤングアラ-面 談を1学期いっぱいかけて終了し た。その後のケアが充実するよ うに、EC室の活動を毎月5日 と安定させた。	B	SC個別面談以外にも相談したい。連 帯して取り組む生徒やその家庭 との関係性を密にし、柔軟に対応 してほしい。	A	EC室の活用が実質的に 進んでいる。SC室は1期以降のた め、予約がいっぱいである。	A	学校に居場所のない生徒が増え ている。EC室等が、そのよう な生徒の居場所になってほしい ので、不登校の相談以上 の広がりを目指す。			
	○不登校対策の実施・充実	・不登校生徒への定期的な SCやSSWとの連携を取り、教育相談の機会を充 実。 ・校内別室指導支援員と連携し、不登校生徒等の居 場所づくりを実施する。	・不登校生徒への学びの場等の確保（区教育研究所主催のバーチャルルーム等の紹介等） ・生徒一人ひとりに寄り添った丁寧な指導を行う。（日々の活動の中で）	B	B	B	不登校生徒への学びの場をも っと増やしたい。区のバーチャ ルルームを紹介したが、なかなか つながることが難しい。	B	民生児童委員とも協力し、地域 からも連携を図りたい。	B	本校から不登校巡回教員が出る が、しっかりと話し合い、時間 も人材も有効利用できるよう に委員会を充実させる。	B	江戸川区主催のイベント バーチャルルーム等を活用し、不 登校生徒の居場所を作りたい。	B	不登校巡回教員と連携を密 にし、情報をもとに不登校の 居場所づくりや、学習機会を 充実させる。	
学校（関係者）との 連携	○自校の取組の積極的な発信 ○学校ホームページの充実等	・学校ホームページや連絡アプリ「テトル」を活用し広 報活動を充実させる。	・学校HPのアクセス数を年11万回以上を達成する。 ・テトル加入数を98%以上とし、ほぼ全ての家庭とより繋がるようにする。	A	A	A	9月時点でアクセス数が5万回 を超えているので、引き続き開 いたてていく。	A	随分行事や媒体でのHP更新が多 くアクセスも伸びている。続け てほしい。	A	ホームページでの情報発信はア クセス数が年20～30万の増加 、10万件を超えている。	A	引き続き学校の情報を発信し 続けてほしい。	B	ホームページだけでなく、テ トルを活用し、「バーチャル ルーム」を活用する。	
	○学校公開の実施・充実	・保護者・地域・関係諸機関等との連携強化 ・土曜授業以外にも講演会や学校行事への積極的 参加を呼び掛ける。学校公開を積極的に推進する。	・学校公開年4回の他、講演会開催など保護者に参観する機会を増やす	B	A	B	学校公開は年一回というよりも、一 切で行事や授業の取組を密にし、 講演会等の保護者参観をテトル やHPで紹介し、参観機会を増や したい。	B	改編中という事もあり、一 切で行事や授業の取組を密にし、 講演会等の保護者参観をテトル やHPで紹介し、参観機会を増や したい。	A	学校公開年一回、全講演会、 委員会、評議員会等も開催して いく。	B	今年度以上の公開を確 立し、開かれた中学校を 目指す。			
	○学校関係者評価の充実 ・教育活動の改善・充実に向けた学校 関係者評価の実施	・学校評議員会を2学期に1回 開催する。 ・保護者向けアンケートの実施 ・生徒向けアンケートの実施	・学校評議員会を2学期に1回 開催する。さらに3学期に開 催し、授業や行事を見たいだ く機会を増やす。	・学校評議員会を年3回の開催に 増やし、行事や通常の授業にも 参観する機会を増やす。 ・学校関係者評価を中間と最終の 2回をHPに掲載し、より学校の ことを関係者にひらく。	B	A	B	学校評議員会を2学期12月に 開催する。さらに3学期に開 催し、授業や行事を見たいだ く機会を増やす。	A	行事だけの参加だけでなく、通常 授業も参観機会を増やす。 ・生徒の参加が伸びている。 ・2月の中 の行事の参加が伸びている。	A	学校評議員会を3回開催でき たが時期を考えた方がいい。 2月中 の行事の参加が伸びている。	B	初めに卒業式を参観して ほしい。生徒が参観する 様子を見てほしい。		
教育 特色ある 取組	○生徒総会（生徒自ら策定）の具 現化 ・生徒が活躍する機会の充実 ・地域とともに地域行事で活動する 地域に根差した小岩一中	・生徒総会等でICT機器を活用し生徒中心の企画運 営、実施を図る。 ・2年生は生徒総会を企画運営する。生徒主体の活動の中でペーパーレス化を図り、iPadを積 極的に活用する。（チームS使用）	・2年生は生徒総会を企画運営する。生徒主体の活動の中でペーパーレス化を図り、iPadを積 極的に活用する。（チームS使用）	A	B	B	生徒総会は充実している。生 徒、教員が協力し主体的に活 動を図っている。iPadにも慣 れ、ペーパーレス化できている。	B	一人一台iPadがあるので、ど んな感じ。ペーパーレス化は いざいざ進めているが、有効 活用を目指してほしい。	B	生徒総会、委員会のペーパー レス化はかなりの進歩。他校 のオンライン生徒会の開催を企 図している。	B	小中学校のようにペーパーレス 化を図ってほしい。テトルを 最大限活用してほしい。	B	HPだけでなく、テトルに なるべく連絡を入れ、配 布文章を揃える。	
	○生徒総会（生徒自ら策定）の具 現化 ・生徒が活躍する機会の充実 ・地域とともに地域行事で活動する 地域に根差した小岩一中	・生徒を中心に生徒が主体的に活動 を助成する。（2 大行事の運動会、学芸発表会など）	・生徒アンケートで「生徒会や学級活動での積極的な参加」の項目において肯定的な意見 を90%以上とする	・生徒アンケートで「生徒会や学級活動での積極的な参加」の項目において肯定的な意見 を90%以上とする	B	B	B	後期生徒会選挙も無事に終わり、 新しいメンバーでより充実した活 動を目指し、東京部の生徒サ マートに参加してほしい。	B	生徒会中心の生徒が主体的に活動 できる機会が増えること。新校 舎改築の一部を決定される部分 が課題となる。	A	生徒会や学級活動の積極的な参 加を促したい。	A	より主体的な生徒会を目指して 新しい企画などを進めたい。 ・生徒会や学級活動の積極的な 参加を促したい。	A	自分たちで考えた企画を しっかりと実行し、大 人同士のやり取り、 フォローに戻る
	○生徒総会（生徒自ら策定）の具 現化 ・生徒が活躍する機会の充実 ・地域とともに地域行事で活動する 地域に根差した小岩一中	・地域のボランティアや小中連携の一環として「三校 一園演劇会」に積極的に参加する。	・地域ボランティア活動や地域の行事等への積極的な参加を推奨する。	・地域ボランティア活動や地域の行事等への積極的な参加を推奨する。	A	A	A	地域演劇のボランティア参加は 88名。中止になってしまっ たが、地域の運動会のボラン ティア参加希望者は50名を超え た。	A	三校一園演劇会に向けて吹奏楽部 の活動を期待している。さら に、地域のボランティア参加で 地域貢献を期待している。	A	三校一園演劇会を成功させた たくさんの小中学生や大人 の目標が達成されたこと を喜ぶ。	B	後半、天候のためではあるが ボランティアが出来なくて残念 だった。	B	令和年度、同様以上 地域の連携の取れたボ ランティア活動に 取り組む。